

採用施設一覧 (◎は基幹施設、○は連携施設)

- ◎墨東病院
- ◎多摩総合医療センター
- 広尾病院
- 多摩北部医療センター
- 大久保病院
- 東部地域病院
- 大塚病院
- 多摩南部地域病院
- 駒込病院
- 小児総合医療センター
- 豊島病院
- 松沢病院
- 荏原病院

研修プログラムの特徴

● 墨東病院（基幹施設）
都立墨東病院外科東京医師アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：外科 高橋 道郎 プログラム研修期間：3年
 連携施設病院：広尾 / 大塚 / 駒込 / 豊島 / 荏原 / 東部 / 小児総合
 獨協医科大学埼玉医療センター / 国立がん研究センター中央病院 / 島しょ等

基幹施設は墨東病院で、都立7病院と連携しています。外科研修で必要な領域すべてを網羅し、東京都の色々なエリアを含んでいます。本プログラムの目的は以下の通りです。

(1) 手術ができる外科医を育てる

外科専門研修の時期に一番大事なことは、とにかく手術を多くすることです。本プログラムでは、3年間で術者を少なくとも200例以上経験することを目指します。外科専門医の最低必要経験症例350例、術者経験数120症例を、短期間のうちに経験できます。

2023年卒業の外科専修医：経験症例約590例、術者経験約270例 / 3年間

(2) 研究発表、論文発表も積極的に指導

学術活動は、手術と同様に臨床医として必要不可欠なものであり、外科専門研修の時期に学んでおくべきものです。本プログラムでは、研究発表、論文発表のスキルを経験豊富な指導医が、積極的に指導し、研修に必要な20単位を大きく上回る業績を達成します。

2023年卒業の外科専修医：全国学会での研究発表6件、和文論文発表1件、合計92単位 / 3年間

(3) サブスペシャリティに繋がる研修

基幹病院、連携病院を含めて、消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科に加え、内視鏡外科、肝胆膵外科、乳腺外科などすべての領域で最前線の医療を行っているため、外科専門医を取得の上、希望のサブスペシャリティ領域に繋がる研修をすることができます。

研修コースモデル	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
	1年次	一般外科		上部消化管外科			救命/ER研修			乳腺外科		
3ヶ月毎に1年次に習得すべき領域を研修します。												
2年次	下部消化管外科			肝胆膵外科			胸部外科研修			駒込病院		
2年次で必要経験症例数達成を目指します。												
3年次	上部消化管外科			上部消化管外科			大塚病院			肝胆膵外科		
専門科やサブスペシャリティにつながる研修を選択できます。												

○ 墨東病院で研修可能なサブスペシャルティ領域

新専門医制度 消化器外科 プログラム責任者：外科 高橋 道郎 プログラム研修期間：3年

外科専門医を既修得の者がサブスペシャリティとして消化器外科専門医を取得するための研修プログラムです。がん診療を主に研修するコースですが救急や良性疾患を含めた消化器外科領域の全域を幅広く研修できるコースです。

専門研修期間は3年で基本的に6か月ごとの単位で上部、下部、肝胆膵をローテイトし消化器外科専門医取得に必

要な手術症例を経験します。研修状況や希望に応じてアレンジは可能です。

近年、がん手術の多くは鏡視下に行われていますが、鏡視下手術練習のための共用のドライボックスもあり、随時使用が可能です。手術支援ロボットダヴィンチが導入され、外科では胃癌、直腸癌手術が施行されており、腓手術でも施行準備を進めています。

**新専門医制度
呼吸器外科**

プログラム責任者：呼吸器外科 江花 弘基 プログラム研修期間：2年

呼吸器外科専門医ならびに、関連学会専門医の取得に必要な知識の取得、術者・助手の手術経験、学術活動を目指す。東京都立墨東病院呼吸器外科における豊富な手術症例（年間250例以上；肺癌だけでなく、気胸などの嚢胞性肺疾患、肺感染症に対する手術、外傷など）を用い専門医取得の修練を行う。術式に関しては基本となる開胸手術のほかに、胸腔鏡下手術、ロボット支援胸腔鏡下手術の修練を行う。学術活動に関しては、国内外の基本となる学会への参加ならびに発表、論文作成、等を行う。修練機関は2年間とし、墨東病院1年、連携施設半年から1年での呼吸器外科研修を予定している。平行して学位（医学）取得も視野に入れ、大学との連携（大学院入学、共同研究など）を行っていく予定である。

**新専門医制度
心臓血管外科**

プログラム責任者：心臓血管外科 由利 康一 プログラム研修期間：3年

心臓血管外科専門医取得に必要な知識の取得、術者・助手の手術経験、学術活動を目指す。①基本的な疾患の診断と病態評価を行い、治療の適応・方針について正確な判断力を身に付ける。②基本的手技（大腿動脈の露出等）に習熟し、高度な手技（やや複雑な弁膜症や腹部・胸部大動脈瘤等、心停止下冠動脈バイパス等の助手、単弁置換術等比較的単純な開心術の術者、技量に応じ急性大動脈解離手術等などの術者）を段階的に習得する。③救命救急センターとの連携で心臓大血管緊急症例への治療プロセスを身に付ける。④上級医指導の元、地方会・全国学術総会等での発表を年1回以上、論文作成を積極的に行う。⑤遭遇、多職種とのコミュニケーションの重要性を理解・実践し、複雑な病態を呈する患者への適切なICを行い、対応力を身に付ける。

**新専門医制度
乳腺外科**

プログラム責任者：外科 高濱 佑己子 プログラム研修期間：3～5年

乳腺外科専門医とは乳癌の診断と手術を含めた治療を専門とし、資格認定試験を経て認定されるサブスペシャリティです。外科専門医プログラムの基幹病院は墨東病院であり各外科分野のほとんどを有しているため、院内で豊富な症例を短期間で経験でき、速やかに外科専門医を取得し乳腺外科専門医研修に移行することが可能です。当院乳腺外科では乳癌だけでなく乳腺炎や良性腫瘍など幅広い乳腺疾患を取り扱っており、豊富な手術を経験することが可能です（年間約200件）。サブスペシャリティ領域の基幹病院となる駒込病院と連携し、幅広い経験を積みながら乳腺外科専門医カリキュラムを3-5年で行います。

● **多摩総合医療センター（基幹施設）
都立多摩総合医療センター施設群外科東京医師アカデミー専門研修プログラム**

プログラム責任者：外科 森田 泰弘 プログラム研修期間：3年

連携施設病院：広尾 / 大久保 / 駒込 / 豊島 / 多摩北 / 多摩南 / 小児総合 / 松沢 / 島しょ等

外科専門医を取得するための研修プログラムが主体です。専門研修期間は3年で、基幹病院または連携施設群のいずれかに所属し研修を行います。（どちらも最低6か月ローテーションすることが規則になっています。）3年間で一般外科 / 救急 / 消化器 / 呼吸器 / 乳腺・内分泌 / 血管 / 小児などの分野を原則3ヶ月を単位としてローテートし、分野毎に集中的に研修を行います。希望があれば心臓血管外科のローテーションも可能です。がん診療を重点的に研修するために、駒込病院の研修期間を長くしたり、また呼吸器外科を目指すために、呼吸器外科の研修期間を長くするなど、目的に応じて研修内容を調整することができます。手術経験数は、平均すると術者200例程度、助手300例程度です。多摩総合医療センターでは、手術動画を院内LANから視聴でき、手術の予習・復習が可能です。また内視鏡手術練習のための共用のドライボックスもあり、随時使用が可能です。また平成30年より手術支援ロボットダヴィンチが導入され、

外科では胃癌、直腸癌、膵腫瘍、肝腫瘍、呼吸器外科では肺癌、縦隔腫瘍、重症筋無力症に対する胸腺摘出が施行されています。シミュレーターなどでの練習も可能で、術者ライセンスも取得することができます。消化器外科、呼吸器外科に関して、希望により研修終了後サブスペシャリティの消化器外科専門医、呼吸器外科専門医取得を目指し、4年目以降在籍することも可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	乳腺外科		ER・救命センター			血管外科			肝胆膵外科			
2年次	下部消化管外科		下部消化管外科			上部消化管外科			連携施設			
3年次	連携施設		呼吸器外科			上部消化管外科			肝胆膵外科			

○ 多摩総合医療センターで研修可能なサブスペシャリティ領域

新専門医制度 消化器外科

プログラム責任者：消化器・一般外科 森田 泰弘 プログラム研修期間：2年

消化器外科専門医は、基本領域である外科専門医に直結する6つのサブスペシャリティ領域の一つで、消化器外科領域の診断、手術、周術期管理などにおいて標準的外科診療を担える医師と定義されています。専門医獲得の要件としては、外科専門医修練開始より300例の手術件数と中・高難度手術の術者50例となっていますが、当院では年間1000例以上の消化器外科関連手術を施行し、消化器外科学会指導医4名、専門医5人の指導体制をとっており、十分な研修を受けることができます。研修は上部消化管、下部消化管、肝胆膵の3つの診療班をローテーションする形で行われています。

新専門医制度 呼吸器外科

プログラム責任者：呼吸器外科 小原 徹也（吉川 拓磨） プログラム研修期間：2～5年

外科専門医からつながるサブスペシャリティ領域の一つである呼吸器外科専門医を目指します。専門医取得のためには術者60例および助手120例の経験が必要で、当院では約2年で必要症例を経験でき、最短卒業7年で取得可能です。同時に必要な業績（学会発表、論文発表）や研修業績（学会、セミナー参加）も指導します。研修終了後は希望により、当科所属となり、呼吸器外科学会評議員資格、気管支鏡専門医、呼吸器専門医、外科指導医など多様な専門医取得も可能です。内視鏡手術も積極的に行っており、胸腔鏡技術認定医やda Vinci Console Surgeonも取得可能です。希望により大学病院との連携により学位取得や呼吸器外科修練を行うことができます。

新専門医制度 心臓血管外科

プログラム責任者：心臓血管外科 久木 基至

プログラム研修期間：3(～5)年(非連動研修者)、2(～5)年(連動研修1年修了後)、1(～5)年(連動研修2年修了後)

本コースは多摩地区を中心とした東京都内の6施設で構成された杏林大学心臓血管外科を中心とした「多摩武蔵野あんずグループ」に所属し、グループ全体で修練医22名、心臓血管外科専門医41名で構成される修練施設群を形成しています。科の特性上1施設で心臓血管外科全分野を経験することが難しいことからグループ内の連携施設全体での研修プログラムを受けることにより、規定期間内に専門医試験資格および必要な経験を習得します。

単独型は卒業6年目より3年間の研修ののち、最短で卒業9年目で心臓血管外科専門医試験に対する受験資格を獲得できます。また、基本領域である外科からの連動研修も認められています。心臓血管外科修練期間は3年以上9年以下であり、修練終了後5年以内に専門医資格獲得が規定事項となっています。

● 広尾病院（連携施設）

指導医責任者：外科 野口 典男

連携をしている基幹施設病院：墨東/多摩総合

当科では、後期研修医が身につけるべき急性虫垂炎や単径ヘルニア、胆石症・急性胆嚢炎などの症例が豊富です。基

本的にこれらの疾患は、すべて後期研修医が執刀医として手術を担当することになります。また、食道癌・胃癌・大腸癌・肝胆膵悪性疾患についても、各領域の専門医が担当していますので、すべての臓器をローテーションし、様々な手術手技を学ぶことが可能です。3年のプログラムの中で、各臓器チームを2-3回ローテーションすることになりますので、step by stepで指導を受け、スムーズなskill upが可能なプログラムとなっています。当院にはERが併設されており、外科でも1次から3次救急まで対応しています。急性腹症、外傷、自然気胸などを中心に様々な救急疾患を受け入れていますので、緊急手術ならびにその周術期管理も習得できます。担当した救急患者については、主治医として緊急手術から術後管理まで担当することで、多くのことを学べます。また、3か月程度ERに出向し、集中的に救急治療を学んでもらうことが可能です。外科専門医取得に必要となる心臓・大血管や呼吸器外科手術も症例豊富ですので、当院での研修だけで必要な症例数を経験することが可能となっているのも特徴です。当科では、手術手技や周術期管理のみならず、診断にも力を入れていますので、後期研修医には内視鏡検査も指導しています。以上のように3年間の研修で、診断・手術・周術期管理につき大きくskill upできる研修プログラムを組んでいます。また、専門医取得も最短期間で可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	上部消化管			下部消化管			肝胆膵			呼吸器・乳腺		
2年次	墨東病院						上部消化管			下部消化管		
3年次	ER		肝胆膵			呼吸器・乳腺			上部消化管			

● 大塚病院（連携施設）

指導医責任者：外科 興石 晴也 プログラム研修期間：3年
 連携をしている基幹施設病院：墨東

大塚病院外科では、消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科という4つの分野で、良性疾患から悪性疾患の手術までを研修していただけます。

胸腔鏡・腹腔鏡手術の普及に伴い、大塚病院外科では、多くの手術が鏡視下手術で行われております。呼吸器外科手術は、ほぼ全例で胸腔鏡下手術を行っております。消化器外科では、虫垂炎、鼠径ヘルニア、胆石症といった良性疾患から、胃癌、大腸癌といった悪性疾患まで、ほとんど全ての症例で腹腔鏡下手術を行っております。後期研修医の方にも、術前に十分な指導・シミュレーションを行い、初めて経験する手術からでも腹腔鏡・胸腔鏡手術を執刀していただきます。習熟度に応じて、腹腔鏡下虫垂切除術など低難易度手術から、腹腔鏡下胃切除術・大腸切除術など難易度の高い手術へ進みます。術後はビデオカンファレンスで指導医から次回に改善する点を共有します。乳腺外科では、マンモグラフィーの読影、エコー・生検の手技、そして手術、さらには抗がん剤治療までの全てを外科だけで学ぶことができます。小児医療にも重点を置いており、新生児から小児まで多くの手術を経験できます。このように一人ひとりの後期研修医に幅広い分野で手厚い指導ができるのが、大塚病院外科の最大の特徴です。基幹施設での修練では、当院で十分な経験が難しい心臓血管外科・外傷外科などを経験することが可能です。当院のプログラム修了後は、東京医科歯科大学、日本大学、東京医科大学、埼玉医科大学など東京近辺の大学の外科医局への入局の推薦も可能です。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	消化器外科			小児外科			呼吸器外科			乳腺外科		
2年次	墨東病院						消化器外科			小児外科		
3年次	呼吸器外科		乳腺外科			自由選択			自由選択			

4つの分野を適宜ローテーションしチームの一員となり、各分野の周術期管理と手術全体の流れを習得。低難易度手術は全例後期研修医が執刀。
 基幹施設の6か月間で、当院で経験不可の心臓血管外科などを経験。2年目のローテーションでは中難易度手術の執刀まで進み、専門分野の選択に入る。
 3年次の後半では自身で決めた専門分野を自由選択し、より難易度の高い手術へ進みます。

● 駒込病院（連携施設）

指導医責任者：外科 脊山 泰治

連携をしている基幹施設病院：墨東/多摩総合

駒込病院は山の手の静かなエリアである文京区に位置します。良い環境で落ち着いて外科医としての基本を身につけませんか？

・外科専門医を取得できます（積極的に術者経験を！）

様々な症例の経験をしながら術者件数を確保するために、1～2年次に術者経験ができる診療科を中心に選択してローテートできます。また小児外科、血管外科はなるべく2年次までに症例経験できるように調整します。3年次は消化器外科、呼吸器外科、乳腺外科など次のサブスペシャリティに連動できるように自由選択となっていますので、次に繋がる研修をデザインできます。卒業生は症例経験 350 例、術者経験 120 例の外科専門医の必修条件を十分クリアしています。

・がん専門病院における研修のメリット

食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科、呼吸器外科、乳腺外科の6領域が専門領域の治療に専念しており、ロボット支援手術、内視鏡外科手術など各領域の最先端手技を学べます。遺伝子診断、免疫チェックポイント治療薬も積極的に導入しており、最先端医療を学べます。

・ロボット外科医教育

近年、急速に普及したロボット支援下手術ですが、当院には既に最新機器が2台入っており3台目も導入準備中です。外科専門研修でもシミュレーター訓練、実機訓練などを行い certificate 取得のサポートをして、ロボット時代の外科医育成に力を入れています。

・学術活動指導体制

学会発表、症例報告、論文執筆など経験豊富な指導医が多く在籍しており、学術活動の機会は多くあります。研修中に英文報告の執筆指導も行います。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	肝胆膵外科			乳腺外科			救急（基幹病院）			一般外科（連携病院）		
	1年次に救急をローテートします。											
2年次	呼吸器外科			一般外科（基幹病院）			大腸外科			小児外科	胃外科	
	2年次までに外科専門医に必要な症例経験の目途をつけます。											
3年次	自由選択枠（例：大腸外科3か月、食道外科3か月、肝胆膵外科3か月、病理2か月、内視鏡1か月）											
	自由選択枠は、消化器外科・呼吸器外科・乳腺外科のサブスペシャリティに連動した研修デザインが可能です。											

○ 駒込病院で研修可能なサブスペシャリティ領域

新専門医制度 消化器外科

プログラム責任者：肝胆膵外科 脊山 泰治 プログラム研修期間：3年

【理念】消化器外科領域診療に関わる最新の知識・診療技術を習得し、実践できる能力を養いつつ、この領域の学問的發展によって社会に貢献すること。

【目標】日本消化器外科学会専門医取得

【当院の環境】消化器外科4領域（食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科）が、がん診療として最先端の医療を提供しており指導医数も充実しているため、外科専攻医からの研修先として評価が高い。

【研修内容】食道外科、胃外科、大腸外科、肝胆膵外科を2年間ローテートしながら、各領域の専門的な手術を経験します。開腹手術に加え、高難度腹腔鏡手術やロボット手術のトレーニングなど最先端の消化器外科手術を習得します。

【学術活度】学会発表、論文執筆の指導も積極的に行い、消化器外科専門医申請に必要な条件をクリアします。

新専門医制度 乳腺外科

プログラム責任者：外科（乳腺） 有賀 智之 プログラム研修期間：3年

当科は新臨床専門医制度乳腺外科専門医カリキュラムの基幹施設。診断では日本乳がん検診精度管理中央機構の読

影認定医が指導している。手術症例数は乳癌の手術が年間 500 例程、生検数も 300 例程あり、これを 7 名の乳腺専門医が診療、教育指導を担当している。薬物療法では自診療科内で化学療法・ホルモン療法・分子標的治療を扱っており、数多くの治験・臨床試験の参加実績を有している。遺伝子診療はカウンセリング、遺伝学的検査、サーベイランス、リスク低減手術からガイドラインの作成に至るまで全般の診療と教育を診療科内の複数の遺伝性腫瘍専門医が担当している。形成外科・病理科とは定期的なカンファレンスを行い、短期間のローテートを通じて乳腺外科専門医教育課程に不可欠な履修を行っている。


● 豊島病院 (連携施設)

指導医責任者：外科 飯田 聡
 連携をしている基幹施設病院：墨東 / 多摩総合

豊島病院外科は東京医師アカデミーの外科基幹病院・墨東病院外科プログラム及び多摩総合医療センター外科プログラムの連携施設となっています。

呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科医はおりませんが、消化管（食道、胃、大腸）、肝胆膵、乳腺外科の各専門医が在籍しており、専門的な診療を行っています。

外科手術件数は年間約 800 ～ 900 例で、初期研修医、外科専攻医の皆さんも能力に応じて多数例の手術の執刀や処置を経験することができます。手術以外にも内視鏡検査や PEG、EMR、ESD、EST などの内視鏡的治療、PTCD、CT 下ドレナージや神経ブロック等の IVR、DMAT チームを中心に医療救護班活動や大規模災害訓練などの災害医療にも外科医が積極的に取り組んでいます。当院では“断らない救急”をモットーに、二次救急指定病院として救急医療にも積極的に取り組んでいます。若い医師には忙しくはありますが、多数例の手術症例を経験することができ大変勉強になると思います。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
 研修コース モデル	1 年次										救命センター / ER 研修	
	4 月 - 12 月では自院での一般消化器外科・乳腺外科の一般的な基礎研修を行う。自院では初診 + 再診外来を週に 1 回担当。3 か月救命センター / ER の研修を行う。											
	2 年次										胸部外科	
豊島病院での一般消化器外科・乳腺外科の一般的な研修を行う。3 か月の胸部外科研修、小児外科研修を行う。												
3 年次										外科 (駒込病院)		外科
3 年次では自院と連携施設での研修を行い、サブスペシャリティに関連した専門性の高い研修を行う。												

● 荏原病院 (連携施設)

指導医責任者：外科 吉利 賢治
 連携をしている基幹施設病院：墨東

外科研修プログラムは、墨東病院を基幹とし、当院は連携施設としてプログラムに参加します。しかし連携施設の採用でも、当院で研修できない領域を基幹施設での研修で補う形で、専門医の取得が可能となります（基幹病院での研修は最低 6 か月は必要です）。当院の外科には、消化器・一般外科、乳腺外科があります。消化器・一般外科は年間手術数約 300 例、地域医療の中核病院として急性虫垂炎、痔核、各種ヘルニア、胆石症などの外科研修の初期に経験すべき低難度手術症例から、消化管穿孔、急性胆のう炎などの緊急手術、胃癌、大腸癌といった消化管悪性腫瘍の手術、これらは腹腔鏡下手術が主となっており、更には肝胆膵癌などの高難度手術に対しては開腹手術にて積極的に取り組んでいます。乳腺外科は年間約 60 例、乳腺腫瘍を中心に手術を行っています。当院はあまり専門に特化した病院ではなく、多くの症例を扱う市中病院であり、そのため若手医師が外科研修を始める病院としては最適の施設ではないかと自負しています。当院では現状はロボット支援下手術は導入しておらず、そのため若手外科医が多くの手術を経験することができます。大人数の外科ではないですがスタッフは皆、各分野の指導医、専門医資格を有し、外科の基礎からマンツーマンで指導する体制をとっています。

外科

研修コース モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	消化器・一般外科											
2年次	乳腺外科			呼吸器外科			墨東病院					
3年次	消化器・一般外科			呼吸器外科			消化器・一般外科					

虫垂炎、ヘルニア、痔核、胆石などの低難度手術を対象に術者として多数の症例を執刀し、外科の手術手技の基礎を学ぶ。症例報告などの学会発表も経験する。

外科専門医取得に必要な様々な分野の症例を経験する。当院では経験できない疾患は基幹病院ローテートで経験してもらう。

外科専門医取得に必要な症例数を確保していることを再確認する。外科専門医に続くサブスペシャリティの希望にも配慮してローテートさせる。

● 東部地域病院（連携施設）

指導医責任者：外科 北島 政幸

連携をしている基幹施設病院：墨東

一般外科診療に対する総合的な知識と技量を習得した医師を育成し、地域医療に貢献することを目標としています。また当院では、患者様だけでなく、医療従事者にも最良の環境を提供することを目指し、直腸癌、結腸癌に対するロボット支援下外科手術を導入しています。様々な手術に積極的に参加、体験してもらい将来の医療の最前線で活躍するための準備ができるように努めています。

研修コース モデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	消化器外科・一般外科・小児外科											
2年次	ER/救命救急研修（基幹施設）			基幹施設			呼吸器外科			心臓血管外科（連携施設）		
3年次	消化器外科・一般外科											



(駒込病院外科 ロボット実習)



(駒込病院外科 ロボットシミュレーター訓練)



(駒込病院外科 消化管吻合実習)



(豊島病院 外科手術の様子)